

銀行名	紀陽銀行
タイトル	新事業開拓における産学官とのネットワークを活かした補助金制度活用支援
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 天然籐・竹・サイザル麻・ココヤシ繊維を使用した床材、敷物、ラグの製造販売を行う取引先のA社は、製造工程で扱うヤシガラから製造される活性炭の将来性に着目し、環境浄化材、緑化資材の製造、加工、販売を新事業として開始する。 ○ A社は、良質な活性炭の開発に成功しており、更なる高度化・量産化の開発に向けて補助金の募集について当行に相談。 ○ 当行は連携先である大阪府立大学産学官連携室にA社の事業概略等を説明し、相談したところ、同連携室と共同で補助金申請手続きを支援し、採択となった。 ○ また、A社の当事業は今後、蓄電や環境分野において需要増加が見込まれることから、今回の相談をきっかけにA社と同大学が高度化・量産化に向けて共同研究・共同開発に取り組むこととなった。 <p>【A社にとっての効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 補助金について当行および、同大学からのバックアップを受けることができた。 ○ 今後の開発について、同大学の技術を共同で扱うことが出来るようになった。

銀行名	紀陽銀行
タイトル	取引先の中国進出サポート
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 業務用シャンプーの企画販売を行うB社は、OEM先であるC社が中国に製造工場を設立し進出したことに伴い、B社も中国に進出したいとの意向をもっていると相談があった。○ 当行は、B社の現地法人設立に向け、外部専門機関や現地ネットワークを活用し、次のサポートを行った。<ul style="list-style-type: none">・ 現地での雇用を行うために「人材紹介会社」を紹介。・ 現地駐在員の居住のために「不動産会社」を紹介。・ 記帳等のサポートに「コンサルティング会社」を紹介。・ 現地での口座開設のために「現地銀行」の紹介。○ B社は上記紹介業者全てと契約を交わし、人材紹介会社経由で現地スタッフを1名採用した。 <p>【B社にとっての効果】</p> <ul style="list-style-type: none">○ B社は中国進出に向け、円滑に準備をすすめ現地法人を設立することができた。

銀行名	紀陽銀行
タイトル	大規模災害対策に向けた支援
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 機械部品製造業のD社は、かねてより臨海部に生産拠点を集中させることによる大規模地震、津波等のリスクに懸念を感じており、生産拠点の一部を山間部に移転させる計画を立てていた。○ そこで当行は、和歌山県企業立地課と連携し、補助金や貸付制度等の優遇制度がある「紀北橋本エコヒルズ」を紹介したところ、D社はグループ会社の1社を同地に移転させることにした。○ なお、当行は工場移転に向け、従業員の通勤手段や、給食業者の紹介など、移転に伴う周辺業務も引き続きサポートしている。 <p>【D社にとっての効果】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 生産拠点の一部を山間部に移すことで大規模地震、津波等のリスクを分散することができた。

銀行名	紀陽銀行
タイトル	外部機関との連携等を活かした経営改善支援・事業再生支援
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ プラスチック製造業のE社は、業歴が長く安定した経営を行ってきたが、売上高が減少し、在庫、品質、原価管理も不十分であったため、収益力が低下し、実質的に債務超過の状態となっていた。 ○ 当行は、メイン行として経営改善に向けて、経営コンサルタントを導入し、中小企業再生支援協議会関与のもと、金融支援を伴う抜本的な再生計画の策定に着手しました。 ○ 策定された再生計画に基づき、売上高の維持・拡大、収益力を向上させるとともに、資金繰りを安定させるべく、資産処分による借入金返済、借入金返済スケジュールの変更を行いました。さらに、当行はE社に対し、DDSを行ったことにより、財務面で改善が図られた。 <p>【E社にとっての効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 再生計画の実施によって、売上高の維持・拡大と収益力の向上を実現することができ、資金繰りを安定させることができた。 ○ 当行のDDSにより、財務面で改善が図られ事業の継続性を確実なものとする事ができた。

銀行名	紀陽銀行
タイトル	事業承継に対する支援
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ F社は実権者の父親と長男と次男の3名で経営していたが、父親は事業の承継にあたり、F社を2つに分割し、長男と次男にそれぞれ承継したいと考えていると相談があった。 ○ 当行は、5年前から提携先の会計士と連携し、F社の100%子会社であるG社設立の支援をした。その後もサポートを継続してきたが、平成25年度下期に両社の資本関係を完全に分離したいと改めて相談を受ける。 ○ 再度会計士と連携し、下図のように資本関係の分離を行った。併せて即時償還制度を活用した太陽光発電事業を提案することで、F法人の株式売却益対策を実施し、事業承継とエコビジネスの両方を実現することができた。 <p>【F、G社にとっての効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 実権者の希望どおり長男と次男に事業承継を行うことが出来た。

銀行名	紀陽銀行
タイトル	MoneyConnection®の実施
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「働くこととお金」について学ぶ機会を提供するために当行は金銭基礎教育授業「MoneyConnection®」へ協賛している。 <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 当行地域内の高校生を対象に公認実施団体として活動している特定非営利活動法人キャリア・ファシリテーター協会と協力し、認定講師による出張授業を年間13校、46クラス、1,566名（平成25年度）に実施している。 <p>【取組みの効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 当事業は地域の公認実施団体と地域の銀行が協力して実施する全国初の取組みである。 